

take the first step

開催要項



1. 趣旨

地域が抱えている課題を自分ごととして捉え、その解決に向けた体験活動を通して、問題を発見する力と、それを解決していく力を養い、よりよい社会づくりに向けて自ら一歩を踏み出し、歩み続けることのできる人材を育成する。

2. 主催 独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家

3. 期日 令和2年7月23日(木)・24日(金)・25日(土) 0泊3日
(希望者は国立中央青少年交流の家に宿泊することもできます。)

4. 会場 国立中央青少年交流の家及び御殿場市周辺

5. 対象 日本在住の高校生

6. 募集人数 40名

7. 持ち物 活動しやすい服装 筆記用具 雨具(レインウェア) 昼食 マスク
【宿泊者】
着替え 上履き
洗面用具(浴室には石鹸・シャンプー等の備え付けはありません)

8. 参加費 300円(傷害保険料など)
【宿泊者】 4180円(食費6食分・シーツ洗濯料・上記傷害保険料など)

9. オリエンテーション合宿 講義等日程

【国立中央青少年交流の家 0泊3日(22単位時間)】			
	7月23日	7月24日	7月25日
8:30~9:00	受付		
9:00~9:50	ガイダンス	講義・演習②	講義・演習④ 「行動計画の基礎」
10:00~10:50	講話 「地域づくりの実践」	「課題解決の基礎」	
11:00~11:50	昼食・休憩	昼食・休憩	
12:00~12:50		フィールドワーク②	昼食・休憩
13:00~13:50	フィールドワーク① 「地域の魅力を発見」	「地域課題の探究」	講義・演習④ 「行動計画の基礎」
14:00~14:50			発表②
15:00~15:50	講義・演習①	講義・演習③	実践活動のためのガイダンス
16:00~16:50	「地域理解」	「地域課題の探究」	
17:00~17:50		発表①	

※青→導入(4科目7単位時間) 緑→探究のプロセス(4科目8単位時間) 赤→地域課題の取組(3科目7単位時間)
※1単位時間=50分

【7月23日（木）】

- ◆ガイダンス〔開会式・アイスブレイク含む〕(9:00~9:50 1単位時間)
⇒全国高校生体験活動顕彰制度の説明を受けるとともに、オリエンテーション合宿のスケジュールを確認する。
- ◆講話「地域づくりの実践」(10:00~10:50 1単位時間)
⇒地域づくりを実践している講師の講話を聴くことにより、地域への関心を高め、よりよい地域づくりを実践していくための意欲を高める。
- ◆フィールドワーク①「地域の魅力を発見」(12:00~14:50 3単位時間)
⇒地域づくりに関する取組についての活動を体験し、その魅力を発見する。
- ◆講義・演習①「地域理解」(15:00~16:50 2単位時間)
⇒グループ協議において、フィールドワーク①で得た個の気づきや発見を共有するとともに、フィールドワーク先の活動目的を考えることで、地域理解をより深める。

【7月24日（金）】

- ◆講義・演習②「課題解決の基礎」(9:00~10:50 2単位時間)
⇒フィールドワーク①において参加者一人一人が感じた地域の魅力や課題について、自らのアイデアによる仮説（解決策）を立て、グループ全員で共有する。また、フィールドワーク②に向けて、仮説を検証するための質問や取組をグループで検討する。
- ◆フィールドワーク②「地域課題の探究」(12:00~13:50 2単位時間)
⇒講義・演習②で立てたグループ内一人一人の仮説をグループで検証するため、フィールドワーク先へのインタビュー等を行い、疑問点を確認したり、より有効な活動（解決策）を探ったりするための取組を行う。
- ◆講義・演習③「地域課題の探究」(14:00~16:50 3単位時間)
⇒フィールドワーク②での検証を踏まえ、互いの良さを活かしながら多面的・多角的に考察し、グループとして1番良いと思う解決策を思索し、発表①（グループ発表）の準備を行う。
- ◆発表①〔グループ発表〕(17:00~17:50 1単位時間)
⇒講義・演習③の成果として、より有効な活動（解決策）とその根拠についてグループ発表を行う。

【7月25日（土）】

- ◆講義・演習④「行動計画の基礎」(9:00~13:50 4単位時間 ※途中昼食休憩含む)
⇒オリエンテーション合宿にて学んだことを踏まえ、一人一人が地元地域で探究活動を実施するための行動計画を作成するとともに、発表②（個人発表）の準備を行う。
- ◆発表②〔個人発表〕(14:00~15:50 2単位時間)
⇒個人発表（振り返りや今後の実践活動の展望）を行い、全体で共有する。
- ◆実践活動のためのガイダンス(16:00~16:50 1単位時間)
⇒実践活動を実施する上での安全管理や社会のルール・マナーを理解する。

10. フィールドワーク コース概要

A 御殿場市コース①

御殿場市は富士山のおもとにあり、また昔から交通の要衝の地として発展してきた。富士山登山道が開かれ、高速道路が開通してからは、工業化・観光地化が進み、緑豊かな高原都市として栄えてきた。しかし、その一方で幾つかの課題も抱えている。遊休荒廃地の拡大も、その一つである。フィールドワークを通して、地域の課題とその改善に向けた取組を探究する。

B 御殿場市コース②

明治時代以降、静岡県は日本一の茶処として、日本の茶業をリードしてきた。御殿場市でも、冷涼な気候を生かし、茶業が盛んに行われ、お茶は地域の人々の生活にも深く関わってきた。近年、国際化や人口増加に伴い、世界のお茶消費量はますます増加している。しかし一方で、茶業の担い手不足や消費トレンドの変化への対応など課題も多い。フィールドワークを通して、御殿場市が抱えている魅力と課題を発見し、課題解決を探究する。

C 裾野市コース

裾野市は豊かな自然と自動車製造業をはじめとした産業が調和した都市として今日まで発展してきた。発展に伴う技術（産業）の革新は、暮らしに豊かさと変化をもたらしたが、一方で、置き去りにされたものもある。放置竹林の増加も、その一つである。フィールドワークを通して、地域の課題とその改善に向けた取組を探究する。

講師紹介

加藤 淳菜 氏 (HINAP 初代代表) 【講話 (23日) 担当】

2015年に沼津市を盛り上げることを目指して発足した高校生によるまちづくりイベント「HINAP」を企画し、初代代表を務めた。高校卒業し、県外へ進学した後も団体を支える活動を継続して行ってきた。2019年に地元に戻ってから、地域活性化のための活動を模索し、現在も精力的に活動している。

勝亦 健太 氏 (チームFRF 代表) 【フィールドワーク① (23日)・フィールドワーク② (24日) 担当】

遊休荒廃地が増え続けることで起こる景観劣化や害虫の発生源増加などの現状を改善するために、「チームFRF」を結成し、その代表を務める。FRF (農地管理継承資金調達) は地域独自の特産物を育て、魅力的な農産加工品の開発を行うことで、遊休荒廃地を農地として活用できるようにし、景観美化、地域経済の活性化、生活環境の整備、雇用の増加など、持続可能な社会づくりを目指して取り組んでいる。

荒井 仁 氏 (有限会社荒井友吉商店) 【フィールドワーク① (23日)・フィールドワーク② (24日) 担当】

1888年創業の荒井園をはじめ、茶業に関わる幾つもの業務を扱っている。近年では伝統的な高品質茶の生産だけでなく、紅茶や半醗酵茶の製造、スイーツを扱う飲食業態の店舗開店、観光客向けの商品開発など新しい取組を行っている。一方で、静岡県茶手採保存会や御厨おもてなし倶楽部、エコハウス御殿場などの理事を兼任し、茶業の発展と地域活性化のために、様々な活動を実践している。

宮坂 里司 氏 (NPO法人みらい建設部事務局) 【フィールドワーク① (23日)・フィールドワーク② (24日) 担当】

2014年にファシリテーションを学んだ有志により設立され、2017年に「個人の意見や多様性が尊重される持続可能な社会の実現」を目指しNPO法人化した「みらい建設部」の事務局を現在まで務めている。社会関係資本の強化を念頭に「会議ファシリテーション事業」「環境保全事業」「子どもの健全育成事業」「人材育成事業」の各事業を通じ、よりよい地域づくりに貢献している。

11. 審査会等日程

- (1) 実践活動及び報告書作成 (オリエンテーション合宿参加者のうち、希望者)
令和2年 8月~11月
- (2) 地方ステージ (出場希望者のみ参加)
令和2年12月13日 (日)
- (3) 全国ステージ (地方ステージにおいて選出された者のみ参加)
令和3年2月

12. 申込方法

「参加申込書」に必要事項を記入の上、FAX・メール (画像添付)

・郵送のいずれかでお申し込みください。

「参加申込書」は当施設ホームページよりダウンロードできます。



<https://fujinosato.niye.go.jp/event/>

申込期間 6月23日 (火) 10:00 ~ 7月7日 (火) 17:00

(先着順ではありません。応募多数の場合には抽選とさせていただきます。)

当事業は、「教育事業編：新型コロナウイルス感染防止対策ガイドライン」(当施設ホームページに掲載) に則って運営いたします。必ずご一読いただき、ご理解いただいた上でお申し込みください。



13. 申し込み先、問い合わせ先 (ご不明な点については、下記担当までご連絡願います。)

独立行政法人国立青少年教育振興機構 国立中央青少年交流の家

〒412-0006 静岡県御殿場市中畑 2092-5 TEL: 0550-89-2024 FAX: 0550-89-2025

E-mail: fujinosato-kss@niye.go.jp take the first step 担当: 市川・藤原・大石

14. その他

個人情報「独立行政法人国立青少年教育振興機構が保有する個人情報の適切な管理に関する規程」に基づき適切に処理し、本事業に関する事務にのみ使用し、法令等に定める場合を除いて第三者に開示することはありません。

また、本事業中に撮影した写真や制作物、感想文等を当機構の事業報告書や広報等に使用し、ホームページにも掲載することがありますことを御了承ください。

2015年の国連サミットで、全会一致で採択された2030年までの国際目標「持続可能な開発目標(SDGs)」の達成を目指し、国立中央青少年交流の家は、率先して推進活動に取り組んでいきます。



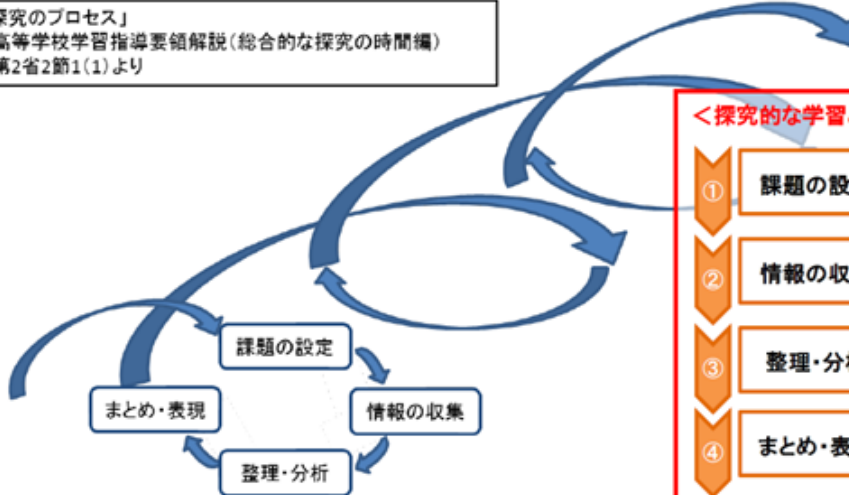
SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
2030年までに
世界の持続可能な
開発目標を達成しよう

全国高校生体験活動顕彰制度「地域探究プログラム」の概要

地域探究プログラムでは、今回の学習指導要領の改訂に伴って名称が変わった「総合的な探究の時間」における「探究」の手法を取り入れています。

「探究」における学習の姿(探究の過程の連続)

「探究のプロセス」
高等学校学習指導要領解説(総合的な探究の時間編)
第2巻2節1(1)より



<探究的な学習とするための指導のポイント>

- ① **課題の設定**
■事前に参加者の発達や興味・関心を適切に把握し、これまでの生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたりする工夫をする。
- ② **情報の収集**
■課題意識や設定した課題を基に、観察、実験、見学、調査、探索、追体験などを行う。
- ③ **整理・分析**
■②の学習活動によって収集した情報を整理したり、分析したりして思考する活動へと高めていく。
- ④ **まとめ・表現**
■他者に伝えたり、自分自身の考えとしてまとめたりする学習活動に位置づけ、そこから新たな課題が湧きあがるようにする。

学習指導要領解説 第6巻第3節1 より

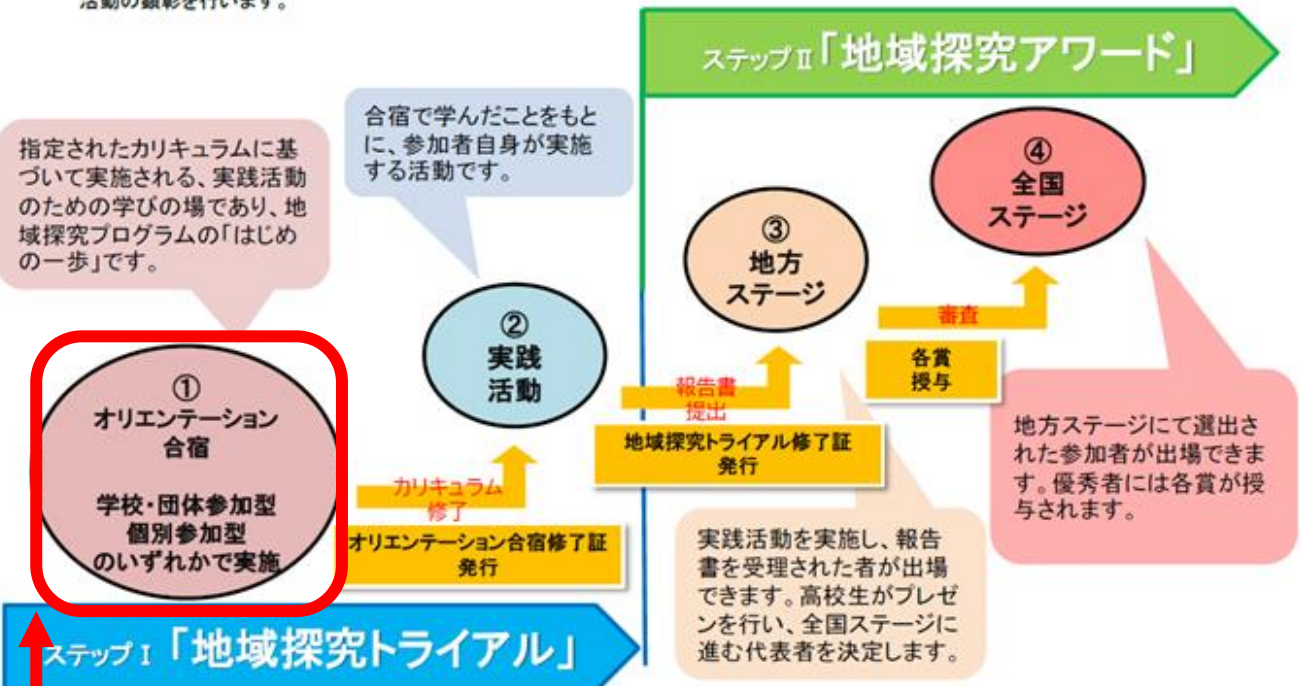
■ 日常生活や社会に目を向け、生徒が自ら課題を設定する。

■ 探究の過程を経由する。
① 課題の設定
② 情報の収集
③ 整理・分析
④ まとめ・表現

■ 自らの考えや課題が新たに更新され、探究の過程が繰り返される。

5

「地域探究プログラム」は、高校生の体験活動を通じた成長を目指し、改訂された学習指導要領のキーワードである「探究」の手法を用いて学習を深める制度です。取組みを段階的に分けており、ステップⅠ「地域探究トライアル」とステップⅡ「地域探究アワード」から構成されています。「地域探究トライアル」では「探究」の学びと実践を、そして「地域探究アワード」では意欲の高い高校生向けに実践活動の顕彰を行います。



※定点の評価を設けることで、個々人の状況や進度に応じた評価ができる仕組みとしています。

今回の事業「take the first step」は、この部分に該当します